

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

山形県山形市 市立病院済生館

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	500床以上	自治体職員
経営形態	診療科数	DPG対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	ド透未訓方	救臨が災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
243,684	41,950	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
528	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	528
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
528	-	528

**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
- 年度	- 年度	- 年度

## I 地域において担っている役割

地域の基幹病院として、全体的に急性期を担い、一部疾患によっては高度急性期を担っている。  
加えて、公立病院の使命として「断らない救急」を掲げ、地域の救急医療に貢献していく。  
地域医療支援病院などの各種指定に基づき、『安全で安心できる質の高い医療の提供』『健全経営』を目指します。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、2年ぶりに黒字を回復したものの、②医業収支比率は4.4%ポイント悪化。  
③累積欠損金比率は若干低下した。

これは、新型コロナウイルスの影響により、入院・外来患者が大きく減少する一方で、国・県からの空床補償等の補助金収入増加が要因。

④病床利用率にみるように、患者数が減少したものの、⑤入院患者1人1日当たり収益は増加しており、『質の高い医療の提供』ができています。

引き続き、感染症対応を含めて、地域に貢献できる病院を目指し、経営改善の努力を行っています。

### 2. 老朽化の状況について

病院建物については、築年数が25年を超えており、①有形固定資産減価償却率、②器械備品減価償却率のいずれも、「類似病院平均」を上回っている状況。

施設の老朽化や狭隘化の状況等を踏まえて、将来を見据えた整備計画の検討、医療機器の適切な更新を行っていく。

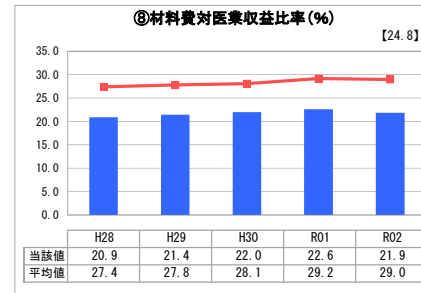
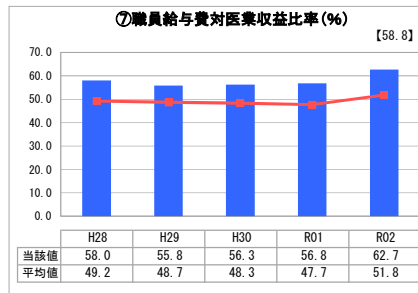
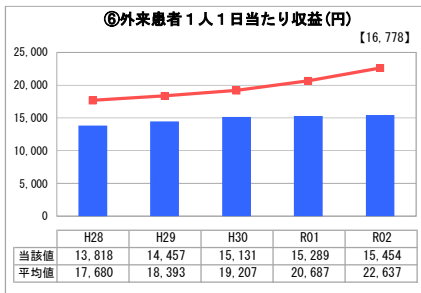
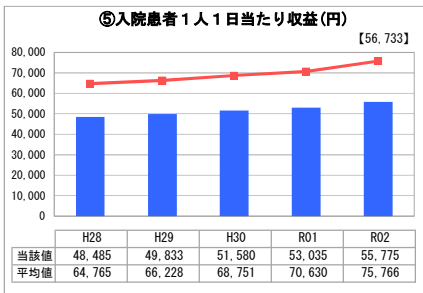
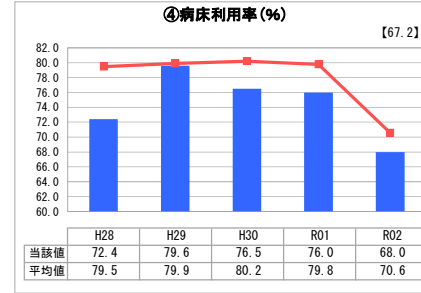
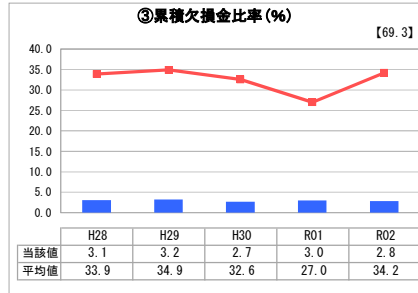
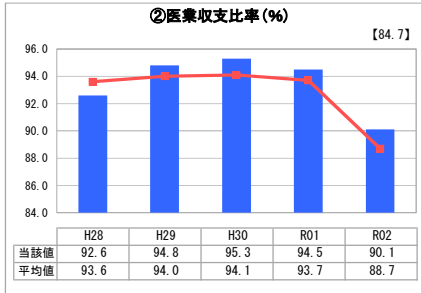
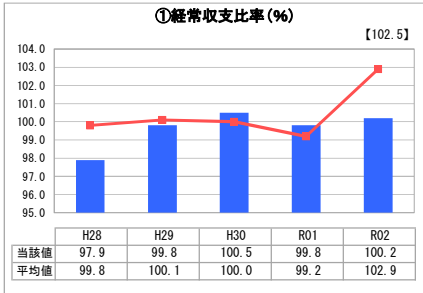
### 全体総括

令和元年度から続く新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、多くの人的資源、医療資源の投入をせざるを得ない状況が継続し、医業収支比率が大きく悪化するなど、厳しい1年となった。

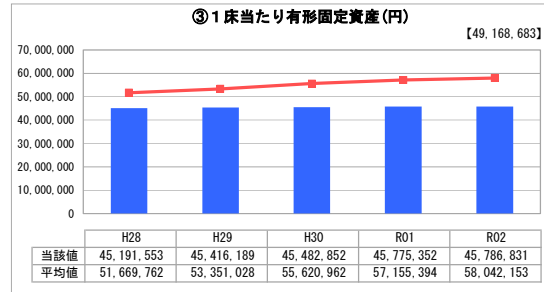
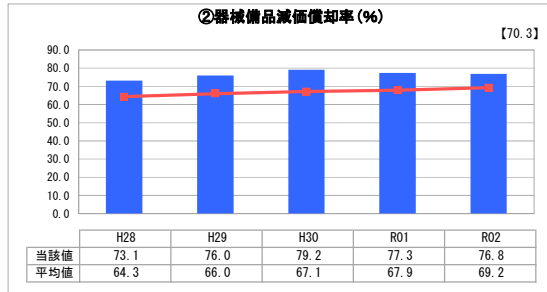
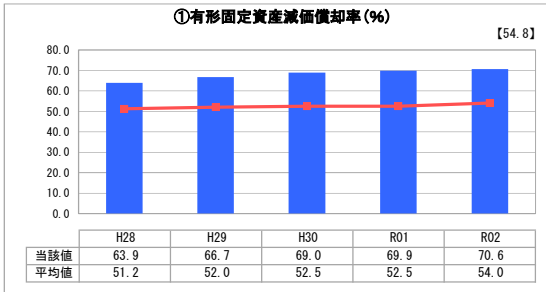
病床利用率が大きく低下するなど、受診抑制がなされたと考えられる一方で、患者1人当たりの収益は高まった。加えて、新型コロナウイルス感染症対応の補助金により、経常収支比率は黒字となった。

新型コロナウイルス感染症の終息は見通せていないが、保健所や地域の診療所との連携を深め、感染症対応を継続しながら、地域における公立病院の役割を果たしていく。

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。